

一番茶、味と香りよし



並べられた一番茶の葉を吟味する業者ら＝揖斐郡揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター

美濃いび茶の出来栄え吟味

県内有数のブランド茶「美濃いび茶」の本年度初の一番茶共販会が26日、揖斐郡揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターであり、訪れた業者が出来栄えを吟味して入札した。

(柴田洋希)

揖斐川町で共販会

同郡内の茶工場が44点、計1025キを出品。参加した県内の小売、卸売業者たちは、1時間ほど会場に並べられた茶葉を手にとったり、湯を入れたりして色や香りを確かめた。1キ当たりの平均落札額は昨年より安い2414円で、最高価格は同町桂のいび茶の里が落札した2万9692円だった。

美濃いび茶は、同町と同郡池田町の約200畝で栽培。今年は良好な天候に適度な降水量も重なって生育がよく、ほどよい渋みと持ち味の甘み、香りがより濃厚に仕上がったという。

美濃いび茶共販委員長の河村三吉さんは「近年になくよい品質。コロナ禍で過ごす時間のお供として、一人でも多くの人にいび茶を楽しんでほしい」と話した。